

あそか

令和4年1月23日発行

〒501-1131 岐阜市黒野 404 番地 1
社会福祉法人岐阜龍谷会 黒野あそか苑

特別養護老人ホーム・ショートステイ

デイサービスセンター・ケアハウス

TEL 058-234-2376

FAX 058-234-2377

ケアプランセンターあそか

TEL 058-234-0303



あそか文化祭り開催!!



世間はコロナ禍。「高齢者施設でクラスタ
ー」とか『第8波のきざし』など、新聞紙面
でも暗いニュースばかりが目につきます。

現在も緩める事が出来ない感染対策によ
り、夏祭りやボランティアの受入れ中止など、
ご利用者様の楽しみも奪われてしまってい
ます。

それでも、なんとか楽しんでいただけの機
会をと、職員間で知恵を絞り、『あそか文化
祭り』と称し、各部署やユニット分けするこ
とで密を避け、色とりどりの催しを開催す
ることができました。

大きな行事が中止されてきたことで、広報
誌も久々の発行となります。

色とりどりの企画、その中で楽しんでい
ただけた様子や雰囲気、目を通してくださっ
ている皆様にも伝われば幸いです。

そして来年こそは、地域の方々にもお声を
かけ、お誘いが出来る行事をしたいと切に願
っています。

黒野あそか苑地域貢献推進委員 後藤 誠

特養・1グループ（11月2日）

利用者様ひとりひとりと交流が持てるように、各職員がレクリエーションを考えました。足浴・ハンドマッサージ・苑外散歩そして、似顔絵シヨール・バルーンアートなどおこないました。足浴やマッサージでは、気持ちよさそうにうとうとされる方もみえました。紅葉には少し早かったですが、苑外散歩は外出する機会があまりないため、「空気が気持ちいい」と深呼吸されていました。バルーンアートでは、「すごいね。わたしにもできたわ〜」。似顔絵シヨールでは、職員が描いた似顔絵をプレゼントさせていただきました。絵をじっと見てとても嬉しそうでした。



特養・2グループ（11月5日）

「ハロウィンのコスプレ」職員も頑張りました。利用者様には耳慣れない言葉かもしれませんが、カメラにおさまる時には、利用者様は「普段とはちょっと様子が違うなあ」と、感じておられた方も多かったようです。その不思議な様子にも笑顔が見られました。写真撮影を終え、ちょうどおやつの時間になり、お菓子とジュースを召し上がっていただきました。「ハロウィン」といったものを楽しませてもらいました、と喜んでいただけました。



デイサービス・ケアハウス

11月31日（10月31日）

「今日は、文化祭？」「抹茶と、饅頭がもらえるらしいよ。」皆さん甘いものには目がなく楽しみにされていました。

少し手をかけることでかわいい『マグネットフック』に変身。それぞれの個性、センスでいいものが出来上がりました。よく言われますが、「世界に一つしかないですね〜」と出来上がりを見てうっとりされていました。頭を使った後は抹茶とお饅頭で疲れを癒していただきました。



食としてチョコバナナ・たこ焼き・ラーメン、そしてジュースを提供させていただきました。皆様、思い思いに楽しんでいただけたようです。中でもラーメンは皆様から好評で、おかわりをされる方もみえました。お菓子釣りでは、競い合いながら真剣に参加され、お菓子が釣れたとき「童心に返ったように、「釣れた、釣れた〜！」と、とても嬉しそうに喜んでおられた姿が印象的でした。



あそか文化祭り

2日目 (11月4日)

『ボール落としゲーム』『お手玉送り』そして、『パン食い競争』をして皆さんに楽しんでいただきました。デイサービス利用者様、ケアハウス入居者様20数名の参加で、普段お互いに顔も知らない方々と交流もでき、皆さん応援に力が入りました。

『ボール落としゲーム』では、心一つにして『阿吽の呼吸』で、「呼吸してくださいね〜」と、声をかけたくなるほど真剣でした。『お手玉送り』では、首を左右に動かし首の運動にもなったようです。『パン食い競争』は、「何個かあるから2個もらっていいから。」「それはちょっと待ってくださいね。」残念そうでした。

手を差しのべ協力して、皆さんで楽しい時間を作っていたと思います。私たち職員も、普段見られない利用者様の姿を見て多くの発見がありました。



新入職員紹介

令和3年以降、当苑の仲間に加わった職員の方をご紹介します。



河合 京子



よくよく
お願いです

デイサービスでお世話になっております。利用者様の気持ちに寄り添える介護員になれるよう、一日一日の積み重ねを大切にしたいです。



川崎 信子



昨年7月よりデイサービスで働かせていただいています。利用者様の気持ちに寄り添い、楽しく過ごしていただけるよう頑張りたいと思っています。



金 善愛



昨年の3月からお世話になっております。利用者様の気持ちに寄り添い、個性を生かした看護の提供ができるように頑張りたいです。



松久 奈央



利用者様に寄り添い、「ここで生活できてよかった。楽しい。」と思っていただけるとうな介護を目指して、日々の業務を行ってきたいです。



水谷 京香



初めてのことは不安もありますが、利用者様が安心してあそか苑で生活ができるように、皆さんと協力して楽しく仕事をしたいです。



小島 歩



入社して一年が経ちました。最初は不安も多かったですが、温かい利用者様や職員の方たちのおかげで楽しく仕事ができています。これからも頑張りたいです。



田中 清楓



入社して一年が経ちました。入社した頃は不安でいっぱいでしたが、今では一人でできることが多くなり、やりがいを感じています。



棚瀬 陽子



介護は50代半ばを過ぎて初めて経験する仕事です。亡き父のお墓を替えるようにした時「触らんで、いい」と拒否された事がきっかけです。体力、記憶力も衰え悪戦苦闘の日々ですが早く安心して信頼してもらえるようになりたいです。



村中 佳美



母の育った地域で働ける事に感謝とご縁を感じながら四月よりケアマネージャーとして従事させていただいています。地域の方のお力になれるよう努力していきます。

あしがき



コロナ禍で外出、面会もままならない状況で、利用者様に楽しんでもらえる事はないだろうか、職員が部署ごとに『あそか文化まつり』を企画しました。『2022・秋号』として、利用者様のお元気な様子をお伝えさせていただきます。